



広島女学院同窓会 東京支部ニュース

編集・発行 東京支部役員会

2023. 11. 1
第 82 号

今年度の聖句

愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善から離れず、兄弟愛をもって互いに愛し、尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい。怠らず励み、霊に燃えて、主に仕えなさい。希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。
(ローマの信徒への手紙 12 章 9～12 節)

夢をあきらめないで!

広島女学院大学 国際英語学科 助教 ドゥロー・アーゴタ



今年の 4 月から広島女学院大学国際英語学科に助教として入りましたドゥロー・アーゴタ (Duro Ágota) と申します。広島女学院大学で教えられることをとても嬉しく思います。

私はハンガリー東部にある

コマーディ (Komádi) という小さな町の出身です。以前から外国語と歴史に興味があり、大学生時代にデブレツェン (Debrecen) 大学で英語を専攻し、修士課程に入ってから北米研究を専攻しました。デブレツェン大学で日本語を選択科目として取り、2010 年から 2011 年まで青森県の弘前大学に留学する機会を得ました。その時、津軽の文化に触れ、現地の方々と交流し、日本語も徐々に話せるようになりました。弘前で一番好きな場所は日本で最も美しい桜の名所だと言われる弘前城と弘前公園でした。

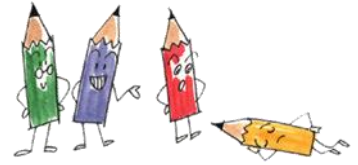
弘前に留学していた時に、戦争文学という授業で中沢啓治作の『はだしのゲン』という有名な漫画を読んだことが、原子爆弾投下を初めて人道的な立場から考えるようになったきっかけです。父親と兄弟二人を目の前で失った 6 歳のゲンの物語を読み、当たり前だと思っていた平和な世界の尊さについて深く考えるようになりました。日本で 1 年間過ごした後ハンガリーに戻り、2012 年に北米研究の修士号を取得しました。ヒロシマとナガ

サキへの原爆投下の歴史と集団記憶を研究したいという強い決意を持っていたため、2013 年に弘前大学に改めて研究生として入学しました。

2014 年の秋には広島市立大学国際学研究所に入り、博士課程で研究を始めました。研究テーマは、韓国に住む原爆被爆者の権利を救援する日本の市民社会活動についてでした。原爆犠牲者の 1 割が朝鮮半島出身だったという事実はあまり知られていませんが、ヒロシマ・ナガサキの被爆史を研究するまでは私も在韓被爆者の存在について知りませんでした。私の博士論文は、平和学をはじめとして戦後日本史と日本の社会史の分野に所属し、日韓関係の新しい解釈と原爆投下の物語の新しい視点を導入しています。原爆投下の話は日本の被爆者の歴史に限ったものではないということを知ることがあります。在外被爆者に日本の原爆被害者と同じ権利と手当を求めた日本の市民の役割を認めるべきだと思います。2017 年 9 月に平和学の博士号を取得した後、広島市立大学で客員研究員として研究、論文発表、学会発表を続けながら、英会話講師として教育経験を積みました。2022 年から 2023 年にかけて、広島女学院中学校高等学校でも英語の授業を担当する機会がありました。

何年にもわたる努力が必要でしたが、日本の大学で教えたいという夢が今年叶いました。ハンガリーからいつも私を支えてくれた両親に本当に感謝しています。両親は、勤勉さと粘り強さによって、人生で大きなことを成し遂げることができると小さい時から教えてくれました。

最後に女学院大学の学生さんに大事なメッセージを伝えたいです：大きな夢を持ち、夢を絶対にあきらめないでください。その過程で多くの困難に遭遇するはずですが、最善を尽くし、決意を持ち続ければ、その努力は最終的に必ず報われます。



広島女学院が繋いでくれる縁

竹崎友映（新保/高51）



広島女学院同窓生の皆様、こんにちは。広島女学院中高を卒業して、青山学院大学へ入学するのと同時に東京に出てきたので、既に故郷で暮らしていたよりも東京での生活が長くなりました。大学卒業後、ラジオ局のニッポン放送に入社して局のアナウンサーを15年間務め、現在はフリーアナウンサーとして番組出演や各種司会、記事執筆などの仕事をしています。

小学生の時にアナウンサーになりたいという夢を抱き、現在もその仕事に就けていること。これは、これまでいただいた多くの方々の支えとご縁がないと叶わないことで、ご依頼を下された方々が考えてくださった以上の働きができるように、そして、いろいろな方に恩返しができるようにと日々頑張っています。最近では、WBC 野球日本代表 前監督の栗山英樹さんとトークショーをさせていただけたことが、アナウンサーとして野球ファンとして、心の底から嬉しいお仕事でした。

私の実家は山口県岩国市にあります。当時は広島—岩国間の快速電車などもなく、また最寄り駅の「南岩国駅」では広島方面行きの電車は朝の通勤通学の時間帯でも1時間に2本しかなく、不便さを感じないということはありませんでしたが、とにかく友人

たちと過ごせる学校での毎日が楽しくて片道1時間半弱の通学時間は全く苦ではありませんでした。宮島あたりで車窓から見える素晴らしい景色など、今でも懐かしく思い出します。6年間ほとんど寝坊することはありませんでしたが、2度ほど、どうやっても在来線の時間に間に合わず、「新岩国駅」まで母に車で送ってもらって新幹線に乗って学校に向かい、始業時間に間に合ったことを覚えています。

昨年夏、卒業してから初めて息子を連れて平和祈念式に参加しました。毎朝礼拝で使っていたゲインスホールの荘厳さ、広島女学院という素晴らしい学校で学べたこと、もちろん当時も感じていましたが、卒業してからの方がその恵まれていた環境をひしひしと感じさらに感謝の念を強くしました。

広島女学院に関する恵まれた環境には、人脈、ご縁、絆というものもあります。たくさん誇れる友人たち、また先輩方、後輩の皆さん。今年の夏には、関東ブロック長の白井京子さんよりお声がけいただき、「8月6日広島原爆記念日に被爆証言集を朗読する会」に朗読者として参加させていただきました。多くの先輩方も聴きに來てください、初めてお会いした方々ばかりでしたが、多様性の中に、女学院で学んだしっかりとした同じ芯が通っている、そんな力強さを感じて自分が女学院卒業生であることを改めて誇りに感じました。



ニッポン放送時代には、聖路加国際病院の院長や理事長を務められた日野原重明先生と番組をご一緒させていただきました。皆様ご存じのように、日野原重明先生のお父様は広島女学院の院長を務められており、そのご縁から日野原先生は2008年4月から2013年3月まで大学客員教授を、その後2013年5月からは学院の最高顧問を引き受けてくださっていました。



日野原先生は、お父様が院長を務めていらっしゃる時、結核に罹られていて療養のため、時に院長室や山口県で過ごされていたそうなのですが、私が卒業生であることをお伝えすると、院長室に来られた女学生さんとの当時の思い出などを楽しそうにいろいろと話して下さいました。また100歳のお誕生日を番組でお祝いした時には、ピアノの演奏までしてくださいました。常にお忙しく2、3年先のスケジュールを手帳に書き込まれ、食事はお肉が大好きな先生の優しい笑顔は忘れられません。

そして今、私は「大石久和のオンライン国土学ワールド」というYouTubeの番組を、元国土交通省道路局長で技監の大石久和さんとさせていただいています。その番組を支えて下さっているのが、各地の「道の駅」で手に入る「ルートプレス」という新聞を発行されているNPO法人「人と道研究会」の松本順子さんという方なのですが、実はその松本さんは、広島に原爆が投下された時の広島女学院の院長で、その後そのご体験から様々な平和活動に従事され、広島・長崎世界平和巡礼団団長として各国を歴訪された、松本卓夫先生のご令孫でいらっしゃるのです。松本さんは、私が広島女学院卒業生と知ってとても

喜んで下さり、この時も母校が繋いでくれる縁を深く感じました。

さて、私はアナウンサーとしての仕事の他に、現在、「いじめ」を世界中の研究結果から予防することを目的とする「BE A HERO プロジェクト」の特任研究員と事務局を務めています。小学生時代にいじめの被害者だったこと、また広島女学院時代、我々の学年がいじめについてたくさん考えなければならない出来事があった「辛い思いをする子を少しでも減らしたい」とずっと思っているなかでこのプロジェクトが発足し、現在は講師と事務局を担当して日本全国の学校で授業をしたり、教員向け・親御さん向けの講義を担当したりしています。（本も出ていますので是非手に取っていただけると嬉しいです。「いじめをなくす！「BE A HERO」プロジェクトの挑戦」/東洋館出版社）

2021年1月、コロナ禍真っただ中だったため、仕方なくオンラインという形ではありましたが、公益社団法人 子どもの発達科学研究所 主席研究員の和久田学先生と私とで、広島女学院の先生方向けに研修会をさせていただく機会をいただきました。私が生徒だった時にしていただいていたように、先生方がどんな時も生徒一人一人を大切にしてください、向き合ってください、改めて感じた時間でもありました。これからも子どもたちのために、できる限りこの活動を広めていきたいとも思っています。



視野を広く持ち、グローバルに、そして人を大切に、人のために。広島女学院で学んだ多くのことを胸に、これからも Chest Up!しながら頑張っていきます。今後とも皆さまどうぞよろしくお願い致します。

夏雲の集い 2023 に参加して 柏井郁子(古谷／高 24)

7月15日に目黒にある白金教会で行われた夏雲の集いに参加しました。当日は35度近い暑さでしたが、広島からいらした同窓会会長の竹内路子様をはじめ50人を超える方々が出席されました。



第一部の礼拝では聖書「マタイによる福音書6章9～13節の朗読の後、黒米理恵牧師により、「主の祈り」は現在の世界・社会ではどういう意味を持つのかというテーマで説教が行われました。

第二部は東大4年生の庭田杏珠さん(高72)による「記憶の解凍」という講演でした。女学院から東大へ進学というのも凄いですが、彼女の研究や行動が凄い!! 既に支部ニュースで詳しく紹介され

ているのですが、幼少時からの平和への関心、高校時代から取り組んでいる戦争体験者への想い、記憶の継承の話を通じて感動しました。卒業後は広島に帰り地元で活動に取り組まれるそうです。本当に素晴らしい後輩。因みにこんな杏珠さんを育てたお母様も同窓生だそうです。

同窓会主催の礼拝等に参加するたびに、懐かしい人や思いがけない人との出会いやいろんな出来事があります。今回も感動と、跡形もなく破壊された広島と今のウクライナの悲惨な状態が重なり、改めて、普通の人々による普通の生活を営むということの大切さ、平和というものを感じた一日でした。



.....

山縣芙美子さん(河内／高5)の娘さんからのお便り

先日は「夏雲の集い」に参加させて頂き、有難うございました。

母、山縣芙美子は昨年亡くなりました。お知らせしなければと東京支部からのお便りの封を開け、「夏雲の集い」の案内を見つけて、今回、姉妹で参加させて頂きました。

礼拝では、私達が子供の頃、母がよく歌っていた讚美歌が流れ、懐かしく、涙が出ました。

私たち姉妹は生まれた時から東京で暮らしていますが、両親とも広島出身で、お墓は広島にあるので、定期的に広島を訪れています。広島市が意思を持って平和を訴え続けていることは、外から来た人間にはよく分かります。

父は原爆で家を失いましたし、父方祖母は半径2キロ以内で被爆しています。でも、私たち家族の暮らしは東京であったため、申し訳ありませんが、日常の

中で原爆の話はさほど身近ではありませんでした。

昨今の国際情勢、核の問題、広島を訪れるたび、考えることは色々ありました。そんな中で「夏雲の集い」に出席させて頂き、大変感銘を受けました。

また、庭田杏珠さんのお話はかなり印象深く心に刻まれました。広島では幼稚園の子を原爆資料館に連れていくのですね。驚きました。でもそれが彼女の今の活動に繋がっていることは明白です。平和教育は努力をし続けていくことに大きな意味があると改めて感じました。

そこで、今後も会報を送っていただけないでしょうか？ 次の世代にどうやって伝えていけるか、私たちに考えていきたいのです。年会費を送らせて頂きます。ご検討、よろしく願いいたします。

感謝をこめて。

須田加矢子、山縣万由子

INFORMATION !

■湊 晶子先生(前院長・学長)

公益財団法人日本キリスト教文化協会より「キリスト教功労者」として顕彰されました !! 顕彰式は10月23日に銀座教会で行われ、大勢の参列者から祝福を受けられました。(広島女学院では1970年に松本卓夫院長・学長が、1985年に広瀬ハマコ院長・学長が受賞されています。)



■竹内道さん(高26)

ニューヨークを訪れた白井支部長が竹内道さんと会食。竹内さんは、ニューヨーク広島会の会長として、8月の平和式典で松井広島市長の広島宣言を読み上げられたそうです。また、来春、サーロー節子さんのドキュメンタリー『ヒロシマへの誓い』が全米でテレビ放送されるとのことです。



■土屋時子さん(山口/高19、文日1)

「ヒロシマ文学資料保全の会」代表として、「サントリー地域文化賞」を受賞！被爆作家や広島ゆかりの文学作家の肉筆原稿や資料の収集・保全を行い、1987年の発足以来、資料約1万点を広島市中央図書館に寄贈。原爆文学の価値を高め、失われるおそれもあった資料を文化的財産として守り、その意義を国内外に継続して伝えてきたことが評価されました。



■書籍「明子さんのピアノとパルチコフさんのヴァイオリン」

同窓生 二口とみゑさん共著
アメリカで生まれ、女学院専門学校生の時に被爆した河本明子さん。ロシアから日本に亡命して女学院



の教師となったパルチコフさん。二人の遺品であるピアノとヴァイオリンの数奇な運命を通じて、戦争の愚かさと平和の大切さを問いかけるノンフィクション。

¥1,800+税

■感謝のカード

80歳を超えても支部会費を納入して下さる87名の方々に、感謝を込めて、東京支部役員松岡理乃さん手作りの季節のカードをお送りしました。



報告 「8月6日・広島原爆記念日に被爆証言集を朗読する会」

東京支部長 白井京子(高23/文英5)

昨年8月6日に「同窓生が読む広島女学院被爆証言集の会」を催し、これからも東京で開催する意義を感じた。今年も新宿カタログハウス本社ビルに25名集まり、同窓生だけでなく、広島にゆかりのある方々に朗読していただいた。

第一部では、「広島女学院被爆証言集」の中から、広島在住の野村久子さんや、東京支部会員の松山秋子さん、サーロー節子さんなどの証言を朗読し、第二部として、8月6日の朝8時に建物疎開のために本川土手に集合していた広島二中の生徒、先生、326人全員が原爆投下により亡くなったという実

話を松山善三さんが本にされた「碑」を読んだ。



広島、長崎以外の方々に、若い方々に、原爆のことを知っていただきたいと、来年はもう少し広い会場でたくさんの方に聞いていただけるよう考えたい。皆さんのお知恵を聞かせてください。



日頃のご支援・ご協力に感謝いたします

支部活動は皆さまの会費に支えられています

振替用紙が同封されている方は

今年度の会費(2,000円)の納入をお願いいたします

電話番号・メールアドレスのご記入にご協力ください
通信欄にメッセージをいただくと嬉しいです

※ 銀行、インターネット振込もご利用ください
三菱UFJ銀行 高田馬場支店
普通 0473771 広島女学院同窓会東京支部

みんなの広場

… 会費の振込用紙通信欄や支部宛のお手紙から …

■広島を離れて60年近くになりますが、広島女学院は私の誇りです。90歳の今も元気です。先日は美しいカードを有難うございました。
柏木 惇(福富/高3)

■小坂和子さんの「同窓生の輪」を読んで、田中一郎先生のことがかくつきりと思い出され、楽しい女学院時代の記憶が甦りました。
佐々木タカコ(高5)

■素敵なカードを有難うございました。細やかなところまでゆき届き、感動しました。しばらく机の上に飾って楽しみたいと思っております。
松山秋子(竹林/高7、大英7)

■何時も充実した通信、皆様の伝えたいと思う力が感じられ、楽しみに拝見しております。
佐々木典子(桑田/高9、短大8)

■いつも有難うございます。6月14日で満83歳になりましたが仕事も楽しく続けております。
鈴木智子(千葉/高11)

■素敵なカードをお送りくださいますありがとうございます。こうして女学院の皆様と繋がっていると思うと心強く、嬉しいです。
伊藤郁子(宮堂/高11)

■会費納入のお礼のカードを受け取りました。お心遣いと役員の皆様のご奉仕に感謝申し上げます。今年はクリスマス礼拝に参加できますようお願いながら皆様の平安をお祈りします。
高井浩子(高橋/高14、大英14)

■素敵なカードを頂き、大きな励ましを感じました。感謝です。この夏には甲府YWCAのフェスタで、サーロー節子さんの映画を上映しました。今も、思い出がたくさん甦ります。
寺島順子(藤本/高14、大英14)

■支部ニュース、楽しく拝読させて頂いています。田中一郎先生の娘さんの記事で田中先生を思い出しました。埼玉県春日部教会の平澤巳恵牧師(女学院大学卒業後、東京神学大学卒業)を同窓会に誘って下さいませ。
藤井幸子(財満/高14)

■支部ニュースが次第に立派になりましたね。先輩宅に集まってワープロをカタカタと打って作っていた頃を懐かしく思い出します。大先輩や大後輩(?)と出会い、各々の学生時代の話を伺うのは同窓会ならではの楽しさで、大いに励まされたり、反省させられたりしました。
新城香代子(高木/高17)

■民生・児童委員をはじめ、地域のボランティア活動に明け暮れる日々です。身体のメンテナンスをして、楽しみながらやっています。
新田由美子(五十嵐/短大18)

■いつも内容の濃い、よく取材、編集された支部ニュースを有難うございます。懐かしさや刺激を受け取って嬉しいです。
佐藤美代(長尾/高23)

■仕事と家庭の両立で慌ただしい日々ですが、機会があれば、高校生の娘を伴ってイベントに参加したいと思っております。
柳澤伸江(河井/高36)

■いつも東京支部ニュースを有難うございます。先輩方のご活躍を拝読するたびに自分も頑張らなくてはという気持ちになります。
佐崎さゆり(山本/高45、文学部27)





クリスマス礼拝

12月16日(土)

13時30分～15時30分(受付13時より)

日本基督教団 銀座教会

中央区銀座4-2-1

JR有楽町駅 中央口より徒歩5分
東京メトロ銀座線 C6・C8 出口よりすぐ

13:00～ 受付、13:25 着席

13:30～ 礼拝・説教 高橋 潤 牧師

14:00～ 懇親会(5階「ぶどう」にて)

問い合わせ:090-3200-5551(白井)



他支部のクリスマス礼拝

★千葉支部 12月4日(月)

13:30～15:00 頃 於:新津田沼教会
礼拝後は自己紹介などのお喋りタイム♪
問い合わせ:090-1774-5200(村中)

★神奈川支部 12月8日(金)

13:30～ 於:藤沢教会
礼拝後、クリスマスの歌をご一緒に!
問い合わせ:080-5171-9428(徳久)